



外國宣傳情報第五號

内閣情報部二一・二五 (延着)

—上海 A・P 無線新聞電報放送(十八日)— (朝鮮總督府通信局轉取)

上海報

十一月十三日の御前會議が蔣介石との和平交渉に乗出すことを決定したといふ東京よりの報道は汪精衛の従者達を甚だしく狼狽させたやうで、上海の汪派代辯者は斯る決定に對し疑惑を示した、彼は若し之等の報道が事實とせば「近頃事態の發展はは目まぐるしいものがあるから全くの不意打ではないにしても確かに思ひがけなかつたことになるであらう」と述べてゐるが、日本が御前會議によつて斯る方針を正式に決定することはあり得ないと思つてをり、日本が實際に重慶との和平交渉に成功せば汪精衛の立場は「困難なもの」となるであらうと附言した。蔣介石軍に對する日本軍の態度に關して質問された同代辯者は之が批評を差控へ、「御前會議の決定に關しては何等の情報もない」と述べた。上海の支那側指導者達は二年前に日本は支那の領土乃至は賠償金を欲せず、支那の主權を尊重するであらうと言明したのが近衛であつたし、又「支那を屈服せしめる」といふ日本の忘れられない誓言の本人も近衛であつたことを想起してゐる。重慶側の反響は直ちに得られないが、蔣介石は最後の日本兵が支那を去る迄和議に應じないことを強調するものと豫言されてゐる。

159

外國宣傳情報號外

内閣情報部一・二五

一、モスコイ露語放送（二十一日）

（東京都市遞信局驛取）

一、（紐育）、UP電に依れば支那政府は、佛印國境を閉鎖し同時に鐵道、郵便、電信をも停止した。

一、米フォード自動車會社は英國向飛行機用モーター四千個の註文を受け八萬平方呎の工場に於て勞働者一萬を以て來夏より作業を開始すると云はれて居る。尙バカード會社も英政府より飛行機用モーター六千個、米政府より三千個の註文を受けた。而して兩者合して一億八千七百五十萬弗である。

一、（紐育）、上海發AP通信に依れば、米國汽船ワシントン號及タフト號は五百名の引揚米人を乗せ當地を出帆した。ワシントン號はマニラに向ふ筈である、尙來年一月一日迄には二千名の米人が支那から引揚げるべく、残る米國人は三千乃至四千人であらうと云はれて居る。

一、（伯林）、英國空軍のキール及ハムブルグ住宅街空爆に對する報復として獨空軍は二十日夜バーミンガムに大爆撃を加へ五萬キロの爆彈の雨を降らせた。このため同市内二十ヶ所に大火災を發したことが認められた。同市の防衛は極めて微弱であり高射砲陣も不活潑で